

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4095500072		
法人名	株式会社友愛会		
事業所名	グループホーム友愛		
所在地	福岡県宮若市宮田191番地6		
自己評価作成日	平成26年1月30日	評価結果確定日	平成27年2月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市古知1丁目6番48号
訪問調査日	平成27年2月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年より心身機能活性運動療法を取り入れており、利用者たちの状態の改善を目標にしています。現在、今年の敬老会に「黒田節を踊りたい」という希望がある利用者を集約的にを行い、本人も意欲的に運動されています。この運動は家族にも好評で習いにいられている方もおられます。昨年からつづき、家族がよく来所され、利用者・職員と交流をもたれます。今後も来やすい、開かれたホームでありたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設2年目のグループホーム友愛は、職員全員で考えた理念の「お互いに尊敬と、感謝の心を持つこと」をモットーに日々支援する職員の対応を見まねて、入居者同士がお互いを思いやり、声かけや目配りをし合うなどの関係ができるまでになっている。昨年から取り入れた心身機能活性運動療法を実践するため、入浴時間や買い物時間を再検討している。なかには、敬老会で「黒田節」を披露したいと心身機能活性運動療法に励んでいる日本舞踊名取の入居者もある。今年度、終末期の指針に加え、意志確認書を整備し、24時間訪問診療と訪問看護と連携しながら、本人と家族の意向を尊重した終末期の介護に取り組む予定である。今後も、運営推進会議や地域行事、ホームの餅つきでの家族や地域と交流しながら、入居者の思いを具体化する支援が期待できるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

ユニット/  
事業所名 **グループホーム友愛**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年全員で理念を考え作りなおし、実践につなげています。	法人の理念に加え、管理者と職員一緒に地域密着型サービスの意義をふまえた理念を作成し、掲示している。利用者、家族、職員がお互い尊敬しあえる関係づくりを目指し、日々実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、もちつきなど事業所の行事に招待したりと、交流がある。ボランティアの方々にも来ていただいています。	自治会には未加入だが、地域の行事である山笠や盆踊りが来訪し、会食と休憩場所を提供している。ホームの餅つきには、自治会、子供会、消防署等の参加があり、誕生会には歌やフラダンス、大正琴等ボランティアの訪問もあり、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の人の理解や支援の方法などの話を運営推進会議の中でしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で前2カ月間の状況を報告し、意見をいただいている。朝礼やミーティングでその内容を報告し、向上に努めています。	開催日を偶数月の15日に設定し、家族全員に案内して2～3家族や、地域・行政関係者が参加している。行事報告、ヒヤリハットや事故等も報告している。外出時の交通事故について家族から質問や意見を受けて、法人所有の車両のみを使用するように変更している。会議記録が整備され、誰でも閲覧できるよう掲示されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村や消防署の担当者に運営推進会議などを通して協力関係を築いています。	市町村のホームページで、居室の空き情報を提示している。地域包括支援センターからの問い合わせもある。今後、徘徊ネットワークの加入を要請する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修などを通して職員が身体拘束について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	昼間は玄関は施錠せず、見守りで対応している。近隣にある系列の有料老人ホームやデイサービスと連携して見守りをしている。ミーティングでは日頃の会話や言葉による拘束についても、意見を交換している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティングなどを通して高齢者虐待防止法等について理解し、虐待防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について研修などを通して学ぶ機会を設けています。	パンフレットを整備して、入居契約時日常生活自立支援事業や成年後見制度について家族に説明している。現在は利用の必要な入居者はないが、管理者は制度等について理解しており、活用について支援出来る体制にある。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結などの際には、十分な説明をし、利用者・家族の理解を図っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来所時には出来る限り時間をとり、意見などと聞くようにしている。利用者とは日頃からコミュニケーションをとり、それらの意見を運営に反映させています。	理念の「お互いに尊敬と感謝の気持ちを持って接し、その人らしさを大切に」を利用者、家族、職員との関係づくりに活かして、コミュニケーションをとっている。家族の訪問や、行事への参加はあるが、家族会はない。	家族同士の自由な意見交換ができるように家族会設置の呼びかけや、ホームでの暮らしを伝える便り等の発行の検討もお願いします。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティングや日常の会話の中で提案を聞き、反映しています。	毎月の定例会は午後7時から、施設長と職員の全員参加で開催されている。今年度導入した心身機能活性運動療法を実践するため、入浴時間や買い物時間の再検討をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も出来る限り朝礼やミーティングに参加して、状況を把握し、職場環境の整備に努めています。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に排除していない。 職員はそれぞれの特技をいかして働いています。 出来る限り希望休をとれるようにして、個人の事情にも配慮しています。	開設後2年間は職員の離職はなく、入居者との関係も落ち着いている。ヘルパー2級取得を義務づけ、入職と同時に資格取得した職員もいる。経験に応じてケアマネジャー資格を取得したり、職員の研修受講や資格取得に理解のある職場である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングなどに限らず、日頃から人権尊重の話をしています。	職員の入居者への日頃の対応を見まねて、入居者同士がお互いを思いやり、声かけや、目配りをし合うなどの関係ができています。同姓の入居者には下の名前で呼びかけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来る限り研修を受けれるようにして、ケアの質を向上していくようにしています。 内部研修は毎月行っています。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	宮若市内のグループホームが集まって、月一度研修を行っています。研修には、実践発表や施設見学もあり、お互いに質を高めるようにしています。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用初期は特に気を付け、声かけ・傾聴を行い、本人が安心できるように努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用を開始する時から、家族にも声かけし、要望などを尋ねながら安心できるよう関係作りに努めています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを利用する前に、見物を勧め、グループホームの特徴などを説明し、他のサービス利用も含めた対応に努めています。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から出来ることはしていただくように声掛けし、お互いに助け合いながら生活する関係を築くようにしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の出来る範囲で通院や外出支援など協力をお願いし、共に支えていく関係を築くようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人などの来訪者が来られています。出来る範囲で家族の協力を得て馴染みの場所に出かけるなどの支援に努めています。	系列有料老人ホームからの入居者が多く、馴染みの関係がある。毎日、昼食介助に訪れる家族もいて、落ち着いて生活している入居者もいる。日本舞踊名取の入居者は、敬老会で「黒田節」を披露したいと心身運動活性療法に取り組んでいる。今年も宗教施設での豆まきに、信者の入居者3名を参加できるように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや声かけなど孤立しないように支援しています。出来ることを活かしてお互いに助け合えるような支援に努めています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も、関係を大事にして必要な相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り把握に努めています。困難な場合は、家族に尋ねたり、日頃の言動から意向をくみ取るように努めています。	基本情報と一緒に、好きな食べ物、嫌いな食べ物を把握して、意向を大切にしている。職員の入居者に対する声かけが多く、会話や言動から思いや希望をくみ取ろうとする努力がなされている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話の中から把握できるように努めています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃からよく見守り・観察して現状の把握に努めています。 職員同士、連携・申し送りをして変化を見逃さないようにしています。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の生活やミーティングでの内容を基に、本人・家族と話し合いをして、現状に即した介護作成をしています。	入居者の担当職員を決めて、居室や衣類の整備が主になされている。介護計画、モニタリングはケアマネジャーが中心になり、職員の意見を集約して作成している。日々の介護記録帳と介護計画が別々に管理されている。	担当職員による介護計画に沿ったケアの実践やモニタリングの実施で、次の介護計画につなげることを期待します。また、状況を共有するための記録用紙の整備をお願いします。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の実践、記録を毎日申し送り、情報の共有をして、対応を検討しています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族のニーズに対応するようにしています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族との外出時には、その日の体調を伝えるなど安全に配慮しています。地域の行事に参加するなど豊かな暮らしを楽しめるように支援しています。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族が納得された病院にかかっています。また、病状によって病院を変えるように支援しています。	月2回かかりつけ医の訪問診療を支援し、24時間訪問診療と訪問看護とも連携が取れている。専門医への受診は、基本的に家族が同伴するが、出来ない時には職員が同伴受診している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	担当の職員を決め、医療・看護職に状況が伝わるようにしています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	2週に1度の往診時に、関係作りを行っています。入院時には病院に行って看護師など情報交換や相談をして、早期退院に努めています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から話し合いをして、事業所で出来ることを説明しています。かかりつけ医とも話し合いをして、支援に取り組んでいます。	「指針」に加え、「意志確認書」を整備し、本人と家族の意向を尊重した終末期の介護に取り組んでいる。現在意志確認書は重度化した段階で説明しているが、今後は入居時など早い段階で方針を説明し、本人、家族と今後のあり方を共有したいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に研修を行い、急変や事故発生時に備えています。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の立会のもと、訓練を行い、体制を築いています。	防災計画書を消防署に提出し、年2回消防署との連携で消火、避難訓練を実施している。AD Eは居間の目につきやすい場所に設置されている。備蓄台帳を作成して備蓄品を整備している。	夜間の避難を想定した訓練と、夜間の連絡体制稼働の確認をお願いします。また、運営推進会議で自治会に避難訓練の協力を呼びかけられてははいかがでしょうか。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重しながら対応しています。	理念の「その人らしさを大切に、笑顔で安心した幸せな生活を目指す」を生活の場で実践し、穏やかな声かけや対応で、ホーム全体が和やかな落ち着いた雰囲気になっている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から声かけ、傾聴して本人が思いを表しやすいようにしています。自己決定も出来る範囲でできるようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人の希望にそえるよう支援しています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に散髪に来て頂いています。それぞれその人らしい身だしなみが出来るように支援しています。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台拭きなど出来る範囲で準備、片づけをしていただいています。 日頃から本人の好みに気を付け、食べれないものは代替えを用意するようにしている。	職員も入居者と一緒に食事をして、介助や声かけをしている。食事介助に来訪した家族とも違和感なく食事を楽しんでいる。ホームの畑で採れた野菜がテーブルに登ることもある。お弁当を作ってお花見に出かけたり、外食を楽しむ機会もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量を把握して、確保できるように支援しています。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや介助を行い、出来る限り口腔内の清潔保持に努めています。 週1回、歯科の往診があり、口腔内のチェックをしていただいています。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけています。尿意がはっきりしない人は定期的に誘導して支援しています。	排泄の自立を支援することを介護の課題にしている。入居時に使用していたトレーニングパンツが布パンツに変わったり、一部介助から見守りへと自分でできる排泄行為が多くなった入居者もいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操を行い、運動するよう取り組んでいます。日頃から水分を多めに取るよう支援しています。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	外出や行事によって柔軟に変更し、出来る範囲で本人の希望で入浴できるようにしています。逆に本人の希望で入浴しない時もあります。	週に3回入浴できるように支援している。たまに入浴拒否があるが、言葉かけで入浴出来ている。入浴後はゆっくりできるよう配慮している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調やその時の状況に応じて、夜に眠れるように支援しています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用など理解するようになっています。症状の変化にも日頃から気を付けています。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る範囲で役割のもった生活が出来るように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で本人の希望にそって外出できるようにしています。 5月には家族の協力も得て、若松のバラ園に行くなどの支援もしています。	年間計画でお花見、バラ園見学、かんぼの宿での昼食に出かけている。車椅子利用者も参加できるように、法人所有の車椅子を積載できる車両を活用している。天気の良い日にはホーム前の広場で日光浴を実施している。ホームから地域の花火大会も見物でき、楽しみのひとつになっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	昨年はお金を所持されていたが、本人が希望されて、こちらで預かっています。外出時には渡して使えるように支援しています。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自分で携帯電話を持たれている方もいます。 グループホームにかかってきた電話は取り次ぐようにしています。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冷暖房など使い不快のないように配慮しています。 壁には季節の絵などを貼って季節感をとりいれています。	玄関から事務所、居間兼食堂とオープンキッチンと見通しがきく空間が広がっている。空気殺菌清浄器が設置され、インフルエンザ対策がなされている。整理整頓がなされ、車椅子の入居者が動き易い空間が確保されている。浴室や脱衣室も広く温度差に配慮されている。入居者は食後もテーブルやソファに座り、個々に寛いでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのテーブルと少し離れたところにソファを置くなどして思い思いに過ごせるようにしています。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものをもってこられるなど、本人が心地よく過ごせるようにしています。	担当職員が個々の居室を整理しており、清潔感のある部屋に設えてある。自宅から持ち込んだ、タンスや長椅子、お仏壇がおかれ、個性的で居心地良く過ごせる部屋づくりをしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーで、車椅子でも自由に動けるようにしています。 廊下には手すりがあり、歩行を支援して、出来る限り自立を支援しています。		